

書評

G. Christopher Willis 執筆

松村理司 監訳

Dr.ウィリス ベッドサイド診断 病歴と身体診察でここまでわかる！

聖路加国際病院名誉院長・理事長

日野原 重 明

今般、医学書院から『Dr.ウィリスベッドサイド診断——病歴と身体診察でここまでわかる！』という非常に魅力のある内科書、あるいは総合医学書ともいえるべき書が出版された。著者ウィリス先生は長年カナダはマギル大学医学部の救急医療部の教授を務められた方であるが、日本が非常に好きで、日本の医学生やレジデントの卒後研修に非常に興味を持ち、1986年、私の勧めにより舞鶴市民病院でレジデント教育を引き受けられた、いわば日本の卒後教育のモデルを作った人である。

ウィリス先生は一時沖縄県立中部病院の指導医として勤めていたが、ちょうどその頃、私の息子が慶應義塾大学医学部卒業後に中部

病院でインターンをしており、彼の患者中心の医療とその人格に非常に大きな影響を受けたようである。

ウィリス先生は日本での医学教育、特にプライマリ・ケアや外来受診時の診察のコツや患者への接し方を舞鶴市民病院で身をもって教えられたのであり、毎日の早朝のカンファレンスで医のサイエンスとアートとを教えられたのであった。つまり、やはりマギル大学医学部の出身で、後にジョンス・ホプキンス大学病院の内科主任教授となった William Osler とそっくりの臨床指導をウィリス先生はされたのであった。

本書の監訳をされたのは、長年同じ病院で働いた、当時内科医長

であった松村理司医師である。本書は、呼吸器、循環器、その他の各系統について、診断学のABC、または診療術が極めて詳しく、しかも要領よく解説されており、医学生や研修医にとっては何よりもよい手引きとなる教科書である。

各系統についての診察の解説とともに主な病気の診察術や主な症状についての解説もされている。さらにまた体液電解質についての章もあり、浮腫やビタミン欠乏などについても解説されている。脚注には病名や症状や薬剤検査値についての解説が書かれている。特にほとんどすべての疾患についての解説が脚注の欄にも書かれていることは、編集の努力によるものと思う。

医学生、研修医ならびに第一線で開業する臨床医や救命救急センターで働く医師に広くその日常の診療上活用される名著であることを述べておきたい。

〔B5 頁720 2008年 定価
6,825円(本体6,500円+税5%) 医学書院刊〕